Museo de Naturales de Geihoku

高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 34 号
2006.10.1
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが，地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています．

もくじ

おしらせ

–第 8 回 八幡湿原再生協議会を開催
–『土嶽の植生調査，秋』中止

活動報告

–雲月山の植物観察会

観察会案内

–キノコの観察会
–冬鳥の観察
–越冬する樹木の姿
–千町原の草刈り

高原からの花だより

–八幡湿原を代表する花，マアザミ

おしらせ

第 8 回 八幡湿原再生協議会が開催されました

(2006.10.9)

開発により失われた湿原を再生し，地域の自然環境を保全するために広島県が進めている八幡湿原自然再生事業の協議会が 10 月 9 日土曜日の 13:00 より北広島町芸北文化ホールで開催されました．

『土嶽の植生調査，秋』について

台風の到来のため，植生調査は中止となりました．ただし，別の日に調査は行い，調査データは取ってあります．

活　動　報　告

雲月山の植物観察会

開催日時：2006 年 9 月 24 日（日）9:30
講師：和田秀次

なぜか毎年天気に恵まれる雲月山ですが，今年もとても良い天気でした．ススキの穂は開きかけて，白い波が見えています．参加者 29 人は，島根県境に近い駐車場から登山を始めました．

今年の観察会では，はじめてマムシを見つけました．「草原の中で何を食べているんだろう？」「ネズミだろうか？」といった話をしていたら，今度はトノサマガエルが現れ，雲月山を舞台にした食物連鎖の一旦が伺えました．

植物の方では，ハバヤマボクチ，ウメバチソウ，シラヤマギクなどが見頃を迎えていました．キキョウは種になり，マツムシソウ，オミナエシは盛を過ぎているようでした．植物の種類によって，昨年よりも早まっているものと遅れているものとの違いがあり，興味深いことでした．

今年のもう一つの特徴は，牛が放たれていたことです．今年の 6 月から放牧された牛は,10 月中旬から回収され,放牧は 10 月いっぱいで終了するそうです．食べられたササやススキ，牛によってできた道や，牛の糞に混じってやってきた水田雑草など，雲月山の植生に大きく影響していました．なによりも，草原の中でのんびりと草を噛んでいる風景はとてものどかなものでした．

山頂で昼食を取ったあと，今春山焼きをした場所と焼かなかった場所とを比較しながら東屋まで戻ってきました．東屋では刈り取られたヨモギを使ってお灸を作ってみました．

駐車場で花合わせをしたあと，何人かの方から感想を聞きましたが，やっぱり焼いた方が良い草原になりますね，という結論でした．秋の花が一休みするタイミングだったようですが，心地よい風の中，楽しい山歩きができました．[し]

今回，越岡さんからも写真を提供していただきました．ありがとうございました．

今年焼かなかった場所も，明らかに草丈が低くなっていた．

登り初めてすぐのところでマムシが登場．オミナエシに囲まれながら，体のつくりを観察した．

燃やした場所とそうでない場所の境界に入って , 違いを体感 .

意外と素早い牛たち .

山頂で勢揃い . 気持ちの良い登山だった .

みなさんの印象に残った物

「ヤマジノホトトギスやオミナエシがたくさん増えているなと思いました.」「天気がよかったので色々な花の説明が得られてよかった.」「花が少なかった.」「草原での牛．いい光景でした.」「風景，秋の草花を堪能しました.」「牛, ノダケ, リュウノウギクの香り」「名前は覚えられませんでしたが，たくさん写真がとれました.」「八幡では見れない花が見れたこと．ハバヤマボクチ」「マツムシソウが２年草ということ」「マムシを近くで見たこと．(6)」「草花の種類の多さにびっくりしました.」「火入れ後の１年と２年目のちがい」「ウメバチソウ，マツムシソウ，ウシ」「ススキと風．雲月山の緑.」「登山と違って草花の観察ができ楽しかった.」「マムシに触れたこと．牙を見れたこと」「沢山の草花が見れたこと. 去年の山焼きの後の方が多かった.」「秋の空に草原がよく似合っていた.」「よい天候とすばらしい草花に出会えてよかった」「今まで会った事のない花に出会ったこと.」「秋の草花」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「マムシとの接近．観察会ならではの出来事に出会え心に残りました.」「いつ来ても良いとこ．全体を焼ける日が早く来ることを願っています.」「1 年目２年目の山焼きの違いも少し分かった.」「山焼きに参加していたので，その後が見れてよかったです.」「最後のまとめがとても参考になりました.」「動物，植物両方観察できてよかったです.」「のんびり観察できたのでよかった．周囲の方の方が植物の名前に詳しいので，講師と距離があっても問題なかった.」「去年に比べ花が少なく感じました．マムシがよく見られてよかったです.」「お天気もよく, 大変楽しかったです.」「山焼き，がんばりましょう！！」「毎年参加でき，その経過に興味を持っている.」「来年山焼きに参加してみたい.」

観　察　会　案　内

キノコの観察会

開催日時：2006 年 10 月 28 日（土）9:00
集合場所：高原の自然館
講師：山手万知子
準備：山を歩ける服装，キノコを入れるかご，お弁当（お昼にキノコ汁をしますので，ごはんを持ってきて下さい）
定員数：30 名
参加費：300 円（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

毎年人気のキノコの観察会です．例年より遅い時期の開催なので，違ったキノコを見ることができるかもしれません．名前が分かるだけでなく，キノコの生態についての解説もあり興味深い観察会になりそうです．観察会の後に試食をします．お楽しみに！ v

冬鳥の観察

開催日時：2006 年 11 月 11 日（土）8:30
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：歩きやすい服装，防寒着，双眼鏡，フィールドスコープなど．
定員数：30 名
参加費：300 円（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

野山に彩りが無くなるころ，八幡高原には様々な冬鳥がやってきます．ヤドリギやサンショウなどの木の実や，ヨモギなどの草の種をついばむ小鳥を観察します．冷え込むこともありますので，寒さ対策をしっかりしてきてください．続けて，越冬する樹木の観察会を行います．合わせてご参加ください．

越冬する樹木の姿

開催日時：2006 年 11 月 11 日（土）10:30
集合場所：高原の自然館
講師：斎藤隆登
準備：歩きやすい服装，防寒着，ルーペなど．
定員数：30 名
参加費：300 円（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

植物は，寒い八幡の冬を越えるために，冬芽を作ります．冬芽の中には来春のための葉やつぼみが準備されています．植物観察というと，どうしても花に目が行ってしまいますが，冬の姿を覚えると，ずいぶんと幅が広がります．今回の観察会では，そうした植物の冬姿を見ていきます．スノーシュートレッキングの予習にいかがですか？冬鳥の観察会に続いて行います．合わせてご参加ください．

観　察　会　案　内

千町原の草刈り

開催日時：2006 年 11 月 19 日（日）8:30
集合場所：高原の自然館
準備:作業の出来る服装，軍手，（あれば）草刈り機・チェーンソー・レーキなど．
草刈り機の燃料，昼食は，こちらで準備します．
定員数：100 名
参加費：500 円

失われつつある千町原の生態系と景観を取り戻すため，２年前から始まった草刈り作業を行います．千町原の草原は，渡り鳥の中継地や草原の草花の生育のためになくてはならない場所です．この草原を維持してきたのは，牛馬の餌や堆肥のために営々と続けられてきた草刈りでした．農業の形態が変わった今，草原を維持するためには新しいしくみを作らなければなりません．地元の方と協同で行うこの活動に，ぜひご参加ください．

当日は，昨年の作業で発生した，草やチップを使った堆肥で作った野菜を食べていただきます．

今後の予定は次のとおりとなっています．参加の申し込みや不明な点などは，事務局の方までお気軽にお問い合わせ下さい．

よろしくおねがいします．

2006 年
　10 月 28 日　キノコの観察会
　11 月 11 日　冬鳥の観察・紅葉とゴギの産卵
　11 月 19 日　千町原の草刈り
2007 年
　1 月 21 日　アニマルトラッキング
　2 月 18 日　スノートレッキング
　3 月 11 日　苅尾トレッキング

― インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い―

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています．印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます．さらに e-mail なら，関連ホームページを見たり，そのまま返事をすることで観察会の申し込みができたり，とっても便利です．パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます．まずは高原の自然館ホームページをご覧下さい．

高原の自然館ホームページからは，苅尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます．郵送している紙版に比べ，鮮明なカラー写真を見ることができ，ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます．そこで，高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています．今後，紙版の郵送が不要な方は，高原の自然館までご連絡ください．みなさまのご協力をお願いいたします．

【高原の自然館】http://shizenkan.info/

高原からの花だより

八幡湿原を代表する花 , マアザミ

植物たちが先を急ぐように秋を深めていきます。遠目に見た山は青くても、分け入ってみると木によって紅葉していることに気付かされます。秋分のころになると湿原もはっきりと彩りを失っているのが分かります。

「湿原を代表する花」を問ったときに、多くの人から「ミズバショウ」という答えをいただきます。しかし、ミズバショウは東日本の花で、西日本にはありません。もちろん八幡湿原にも自生していません。おそらく「夏の思い出」の歌がたくさんの人に「湿原といえばミズバショウ」という図式を植え付けてしまったのだろうと思います。西日本では、ミズバショウが生育するような環境にマアザミが生育しています。

マアザミは、夏が思い出になるころに花を咲かせます。花がうつむいて咲く様子をタバコを吸うキセルに例えてキセルアザミと呼ぶこともあります。湿原の中でも、水面が見えるような所からやや乾いた所にまで広く生育します。八幡湿原ではどこにでも見られるため、1950 年代に八幡で行われた調査では、西日本の典型的な植生型として「ヌマガヤ - マアザミ群集」が名付けられ、これが国際的に認められる名前になりました。八幡湿原で名付けられたこの名前は、今でも湿原植生の研究者たちの間で使われています。マアザミが湿原を代表する植物と言われる所以はここにあります。

花の時期が終わると、曲がっていた茎は上を向き、グッと伸び上がります。その様は、種を少しでも遠くに飛ばそうとする最後の生長です。マアザミの花が種になるころ、湿原は冬の眠りに向かいます。

この記事は『広報きたひろしま 19 号』に掲載されたものを転載したものです.

この秋は大きな台風被害も無く，稲刈りは順調に終わったようです．山の緑もしだいに赤味が強くなり，日ごとに深まる秋を感じる季節になりました．花が減ってきて寂しいと感じる反面，盗掘や湿原への踏み込みにやきもきすることから開放されて，ホッとするのもこの頃です．冬の豪雪がやってくる前の穏やかなひととき，何もせずにただのんびりとすごすだけ，というお出かけのスタイルはいかがですか？

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒 731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/　　staff@shizenkan.info
冬季連絡先：0826-35-0070（芸北文化ホール）